

かお・人・interview

2019年7月25日

新所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
北九州国道事務所 所長

谷川征嗣氏

masatsugu TANIGAWA

九州の玄関口ともいえる北九州国道事務所は福岡県の北部・東部を管轄し、総人口約183万人の生活幹線道路を担っている。今年度は嘉麻市から朝倉市を跨ぐ八丁峠道路が開通予定を含め、建設中の春の町ランプの橋梁工事など、地域の期待は高まるばかりだ。現在取り組んでいる事業や課題などについて新任の谷川所長に話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

道路を利用する方々が安全に安心して通行できるように、人やモノの動きを支えるということを通じて、管内の地域がもっと活力ある地域になるように支援をさせていただく。それが我々に与えられた役割であると考えています。そのために、現在進めている様々な事業を着実に進め、できる限り早期に完成させ、皆様に喜んで使っていただけるようにしたいと考えています。



▲北九州市内

また、地域をより良くしていくためには、地域の方々の声にしっかり耳を傾け、様々な方々との交流を通じてそのニーズをしっかりと把握し、行動することが重要だと思っています。地域の課題解決に向けた新たな事業の創出など、地域の期待にしっかり応えられるようにしたいと考えています。

Q 九州や福岡県とのかかわり

最初の勤務地である福岡国道事務所では国道バイパスの工事の設計・積算等に携わりました。その14年後には2回目の福岡国道事務所勤務となり交通安全事業を担当。そのほか、熊本河川国道事務所では新たな路線や整備区間の計画や環境調査等を担当しました。

北九州国道事務所は平成23年度以来2回目の勤務となります。その当時担当していた国道3号黒崎バイパスの延伸、国道201号飯塚庄内田川バイパスの4車線化完成や行橋インター関連の2車線開通など、道路整備が慌ただしくも着実に進んでいることを実感しまし



人やモノの動きを支えることで
管内がもっと活力ある地域になるよう
支援するのが我々の役目。

た。また新たな事業も着手されており、地域からの期待を改めて感じています。

Q 当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

北九州国道事務所は、九州の玄関口である北九州市をはじめ、筑豊地域、遠賀地域、京築地域といった福岡県の北部及び東部を管内とし、関門トンネル付近の国道2号、九州の東西を縦貫する国道3号と国道10号、また筑豊地域を横断する国道201号の4路線約177kmに関する改築、電線共同溝整備、交通安全対策、維持管理などの事業と、権限代行により国道322号八丁峠道路の改築事業を行っています。

管内には、政令指定都市である北九州市（人口約95万人）とその周辺及び筑豊の11市18町1村の地方自治体（総人口約183万人）があり、地域の特性に応じた地域計画やまちづくり、災害対策、また社会資本の老朽化対策等を支援しています。これら地域の活性化を図り、生活や産業、社会・文化活動などを支えるために、基盤となる直轄国道の安全・円滑・快適な交通を確保するという重要な使命を担い、交流・物流のさらなる飛躍に貢献したいと考えています。

Q 今年度の事業概要

1) 北九州都市圏の交通円滑化



▲黒崎バイパス（航空写真）

北九州市は、九州の玄関口になっている地域的特性から、九州各地と本州を結ぶ交通、古くから製鉄を中心とした製造業が盛んなことから産業交通、また都市圏の生活交通が混在しているという特徴があります。自動車専用道路としては九州縦貫自動車道、東九州自動

車道と、北九州都市高速道路が整備されており、一般道路と効果的に連絡させることで、都市圏の交通をより円滑にする道路網が構築できると考えています。

整備中の国道3号黒崎バイパスは、国道3号と国道200号を北九州都市高速道路に接続する自動車専用道路であり、北九州市副都心黒崎地区の渋滞を解消させ、都市機能の充実が図られると考えています。今年度は、JR 鹿児島本線八幡駅付近の線路を跨ぐ橋の工事を進めており、日本に数台しかない3000t級クレーンにより約400tの桁を一括架設することとしており、現在現場において桁を組み立てているところです。



▲黒崎バイパス（春の町ランプ部）

2) 筑豊地域の広域交流ネットワークの確立

筑豊地域は、福岡都市圏に隣接するものの人口の減少と高齢化が進む地域となっています。その中で筑豊地域を横断する国道201号沿線には福岡県内の約5割の自動車関連企業が立地し、また飯塚市と福岡都市圏との通勤通学流動は増加しており、特急・急行バスも最大で5分に1本の高頻度で運行されるなど、地域が活性化するポテンシャルも高いと考えられます。

国道201号八木山バイパスは4車線道路に挟まれた暫定2車線区間であり、ボトルネックのため渋滞が発生、ピーク時は通常の2倍の時間を要すなど、時間信

頼性が欠如し地域交流を阻害する要因となっていました。また、対面通行のため、対向車線への飛び出しによる正面衝突事故など、重大事故となる確率が高い状況でした。

▲八木山バイパス事故



今年度から新たに4車線化事業に着手することとなりました。周辺自治体や地域住民・企業から一刻も早い完成を望む声が多く、利用者負担による有料道路事業も組み合わせて実施し、篠栗IC～筑穂IC間の5.9kmを令和6年度に開通する目標で事業を進めます。



▲八木山バイパス渋滞風景

国道201号では、香春町における4車線拡幅事業である香春拡幅(延長2.1km)においても橋梁工事などの工事を推進しています。また、国道322号八丁峠道路は延長約3.8kmのトンネルを含む全線(延長4.5km)を今年度開通する予定です。

3) 幹線道路ネットワークの整備

政令指定都市である北九州市と福岡市を結ぶ国道3号の2車線区間である岡垣バイパスの4車線化を進めており、今年度は岡垣トンネルの工事に着手する予定です。また、国道10号豊前拡幅においては、今年度は山国川に架かる新山国大橋の工事を進めているところです。

このほか、交差点における事故対策や歩道整備などの交通安全事業、無電柱化のための電線共同溝事業、防災・減災、老朽化対策などの維持修繕を進めています。

Q 地域との連携・協働について

当事務所では、地域や企業の皆様と協働して行う「道守」や「日本風景街道」のほか、特に八幡維持出張所、行橋維持出張所、筑豊維持出張所の3出張所が道路の維持管理を通じて沿線住民や道路利用者との窓口となり、地域と密接に連携や協働を行っています。平成30年には、八幡維持出張所が地元の高校生、住民、協力団体及び戸畑警察署と連携し、ボランティアで地下道の落書きを消し、壁画を描く活動を行いました。

国道3号鞘ヶ谷地下道は、過去から何度も落書きが繰り返され対応に苦慮していた場所ですが、限られた予算の中で、地域やボランティア団体等できるだけ多くの関係者を巻き込み、地域の防犯意識向上につながることで、学生たちに壁いっぱいイラストを描いてもらうことで、落書きの再発防止につながることを期待し



対応に苦慮していた
暗い地下道が、高校生や
住民、協力団体の手で
親しみやすいスポットに。
道路への関心が高まりました。

ました。地域の方々に道路の維持管理への関心を持ってもらい、関係者のモチベーションを高めるためマスコミのへ広報活動を実施し、完成後には感謝状の贈呈式も開催しました。

当初の落書きで怖くて近寄りがたい場所から、明るく親しみやすいスポットとなり地域の安全・安心が向上したと考えています。



▲落書き消し感謝状贈呈式



▲高校生の手によって明るさを取り戻した壁面

Q 地域建設業への要望・メッセージ

地域の建設業は、社会資本の整備・維持管理はもちろんです。地域の防災・減災のための国土強靱化、また、災害発生時の迅速な復旧など、我が国の国土保全上必要不可欠な「地域の守り手」と考えています。

特に、近年の豪雨災害においては非常に重要な役割を担ってもらっており、保有する重機等の資機材や専門知識を発揮して復旧活動にご尽力いただき心より感謝しています。人口減少や高齢化が進む中でも、これらの役割を継続していただくため、経営者、技術者、技能者すべての担い手を確保する必要があります。そのためには、魅力ある職場となるよう、給与・休暇等の処遇面、また女性も働きやすい職場環境の改善、事故のない安全な現場づくりに取り組んでいって欲しいと考えています。

発注者としても、i-Construction や新技術による生産性向上、4週8休の実現、年間を通した工事の平準化等に取り組んでいます。またそれらを進めていく上で、日頃から地域の建設業の状況をお知らせいただくとともに、ご意見やご要望も遠慮なくお伝えいただきたいと考えています。そのような意見交換の機会を積極的に持ち、受注者と発注者がよりよいパートナーとなって様々な事業が進むことを期待しています。

Q 働き方改革への取り組み

建設業界を取り巻く環境は変化しています。労働生産性を高めるために、新技術の活用が言われていますが、建設業界は特に若年層に関し相当な労働力不足に陥っていきます。このまま担い手不足が解消されなければ、何か災害が起こったときの対応力にも課題が生じかねません。

建設業が魅力ある職場になるため「働き方改革」が不可避ですが、国土交通省も率先して働き方を変えていく必要があると感じています。今は業界や行政にとって、働き方を変えるタイミングです。

Q 趣味や健康法について

特別な健康法はありません。決まった時間にスポーツを行うのは難しいので、愛犬との散歩に時間をかけています。同じルートの散歩でも、立ち止まった場所にきれいな花が咲いているなど、意外な面白さを発見できるので、飽きることなく続けられます。

道路に関わる仕事をしているせいか、ドライブは苦になりません。空気がいいところや、景色が美しい場所を目指して県外でも出かけていきます。熊本に勤務していたときは北外輪山（ミルクロードや阿蘇スカイライン、大観峰）などによく出かけていました。四季折々に変化する周辺の緑は今でも思い出されます。

プロフィール



出身地：宮崎県延岡市出身
 生年月日：昭和41年9月15日（52歳）
 H元年4月 建設省入省
 （九州地方建設局
 福岡国道工事事務所に配属）
 H19年4月 九州地方整備局福岡国道事務所
 交通対策課長

H21年4月 九州地方整備局北九州国道事務所 工務課長
 H24年4月 九州地方整備局道路部道路管理課 課長補佐
 H27年4月 国土技術政策総合研究所道路構造物研究部
 道路基盤研究室 主任研究官
 H29年4月 九州地方整備局道路部 道路保全企画官
 H30年4月 九州地方整備局道路部 道路工事課長
 H31年4月 九州地方整備局北九州国道事務所長（現職）